記入例：事例６（業務外で感染した蓋然性が高いと判断）

様式５

新型コロナウイルス感染症の業務起因性の判断のための調査復命書

整理番号	

○○局○○署

署長		副署長		課長		給調官		係長		係		復命年月日 令和　年　月　日

署長判決・指示事項	調査官	労働基準監督官
１．調査官意見のとおり決定する。 ２．下記事由により再調査を要する。	調査期間	自 令和　２年　８月　３日 至 令和　　年　　月　　日
	受付年月日	令和　２年　８月　３日
	請求種別	□療養 □休業 ■遺族 ■葬祭 □障害 その他（　　）

事業場	労働保険番号	99.1.99.999999-000		
	名称	(株)認対コンサルティング　代表者名　選任代理人　補償　五郎		
	所在地	〒111－1111 ○○市○○町３－３－３	TEL：00-0000-0000	
	業種	その他サービス業（９４１６）	労働者数	150名
被災労働者	ふりがな 氏名	ほしょう　じろう 補償　二郎　（男）・女	生年月日	昭和・平成 ４２年９月２０日　（５２歳）
	住所	〒111－1111 ○○市○○町４－４－４	TEL：090-0000-0000	
	職種	〔常用〕	職名	コンサルタント業務
	雇入年月日	平成　５年　４月　１日		
ふりがな 請求人		ほしょう　みつこ 補償　三子　（続柄　妻　）		
病状	発症時期	令和　２年　３月３１日　午前・午後１０時００分（頃）　（発症時年齢５２歳）		
	現在の状況	生存・死亡（死亡年月日　令和２年５月１日　（死亡時年齢５２歳）		

請求人の申述	被災労働者の死亡は、新型コロナウイルス感染によるものであり、感染経路の確定ができていないが、業務が原因の一つと考えられるとして労災請求に及んだもの。
事案の概要	被災労働者は、平成５年に事業場に入社し、クライアントの経営マネジメントの業務に従事していた。 令和２年３月31日に発熱、咳、頭痛、関節痛の症状を訴え、同年４月１日に近医を受診した。その後、上記症状に舌のしびれも加わり○○病院へ紹介入院となり、同月３日のPCR検査でコロナウイルス感染症と判定された。その後、頻呼吸、咳嗽著明、酸素化低下あり挿管管理後、△△医科大学病院へ紹介入院となり加療を続けるも、翌月１日に死亡した。

1 総合判断

総合判断	〔調査官の意見〕 本件は、〔　業務上　・　業務外　〕と考える。 調査の結果下記のとおり、業務外で感染した蓋然性が高いことから、労働基準法施行規則別表第１の２第６号５における疾病に該当する・該当しない　ものと判断する。 １　ＰＣＲ検査結果（検査結果確認先：○○病院、○○市保健所） ■　陽性 □　陰性 ２　感染経路の特定 □　有　（□　国内　□　国外、国名：　　） （□　業務内での感染、□　業務外での感染） 特定した機関名： ■　無（不明） ３　請求就労状況の該当事由 （１）□　医療従事者等（　　の業務） （２）□　医療従事者等以外の労働者であって感染経路が特定されたもの （３）■　医療従事者等以外の労働者であって感染経路が特定されていないもの ①　□　複数（請求人を含む）の感染者が確認された労働環境下での業務 ②　□　顧客等との近接や接触の機会が多い労働環境下での業務 （４）□　海外出張労働者（出張先国名：　　） （５）□　海外派遣特別加入者＊上記（１）から（３）の該当項目も必要 ４　感染経路不明の場合の推認事項（特定の場合は感染経路） □　労働環境下での感染 （根拠：顧客等との近接や接触の機会が多い労働環境下での業務には該当せず、また、事業場では請求人以外の新型コロナウイルスの感染者は確認されていない。事業場では、テレワークを導入し、出勤する社員を３割程度に制限する、マスクの着用を推奨する等の感染防止対策を行っていた。 以上のことから、感染リスクが相対的に高いと考えられるような労働環境下での業務には該当しない。） ■　一般生活での感染 （根拠：発症４日前と発症 12 日前の業務終了後に、請求人は任意の懇親会に参加し、発症 12 日前は４人で３～４時間、発症４日前は９人で５時間（３次会まで）飲酒を伴う会食をしている。 以上のことから、一般生活において、感染リスクが相対的に高い行動

	が確認され、業務外で感染した蓋然性が高いと判断される） 5　地方労災医員等専門医意見 □　該当無 ■　該当有（意見要旨：感染経路は不明であるが、業務と一般生活状況のいずれかのリスクが高いのかという点においては、長時間にわたる大人数での会食を複数回行っており、業務により感染した蓋然性が高い労働環境下であったとは認められない。）

2　出現した症状等について

		資料No
症状出現時期	令和２年３月31日	
症状の内容	令和２年３月31日突然発熱（38.5度） 火曜から金曜まで高熱、頭痛、咳、つま先（足）の冷たさ、食欲不振	
感染原因について	不明	
既往症・既往歴	なし	
その他		

3　業務状況に関すること

		資料No
業務内容	経営マネジメントの企画・立案	
職場環境	事業場には通常約１５０名の社員が勤務していたが、３月以降原則テレワークとなり通常時の３割程度しか出勤していなかった。３月は席の間をパーテーション等で仕切ることはしていなかったが、マスクの着用は推奨されていた。 打ち合わせの席には衝立は設けられておらず、他の者とのは前後２メートル、左右１メートルほどであった。	
事業場内の感染経路特定の状況	感染者なし	
他の労働者・施設利用者等の感染状況	感染者なし	
業務内の感染（疑い）者との接触状況	なし	
業務における人との接触状況	近接状況：衝立なしで前後２メートル、左右１メートルの近接 人数　　：２人～３０人 時間　　：６０分～１２０分	
流行地域への渡航又は出張の状況、出張先地域での感染状況	なし	
業務に関する発症前14日間の行動歴 ＊様式1「使用者報告書」等より出勤時のみの状況を記載	3/30　発症1日前：AM自宅にてテレワーク、PM出社（本社）勤務、打ち合せ実施（5人×90分）（マスク着用有） 3/27　発症 4 日前：終日社内（所属事業場）勤務、PM 打ち合せ実施（6人×120分）（マスク着用有） 3/26　発症 5 日前：終日社内（所属事業場）勤務、PM 打ち合せ実施（2人×60分）（マスク着用有） 3/25　発症6日前：終日社内（所属事業場）勤務、昼にランチミーティング（17人×60分）、PM打ち合せ実施（30人×15分）（マスク着用有） 3/24　発症7日前：AM自宅でテレワーク、PM出社（所属事業場）打ち合せ3回実施（2人×60分、8人×60分、5人×60分）（マスク着用有） 3/23　発症8日前：AM社内（所属事業場）勤務（マスク着用有）、昼にランチミーティング（9人×60分）、PM年次休暇 3/19　発症 12 日前：終日社内（所属事業場）勤務、AM 打ち合せ実施（5人×30分）（マスク着用有）	

	3/18　発症 13 日前：AM 自宅でテレワーク、PM 出社（所属事業場）打ち合せ 2 回実施（7 人×60 分、7 人×60 分）（マスク着用有） 3/17　発症 14 日前：終日自宅でテレワーク（マスク着用不明）	
その他の状況		

4　一般生活状況に関すること

		資料 No
家族中の感染者の状況	なし	
一般生活上の感染者との接触状況	なし	
一般生活における人との接触状況	会食にて複数人と接触が確認される。	
海外渡航歴又は流行地域への移動状況、移動先地域での感染状況	なし	
一般生活に関する発症前 14 日間の行動歴 ＊様式２「申立書」等より出勤時以外の状況を記載	3/27　バス・電車での通勤・出社・送別会・二次会・仕事 会社帰りの任意の飲み会（居酒屋で５時間程度）に参加（一次会：9 人、二次会：9 人、三次会：3 人） 3/19　会社帰りの任意の飲み会（居酒屋で３、４時間程度）に参加（4 人）	
その他の状況		

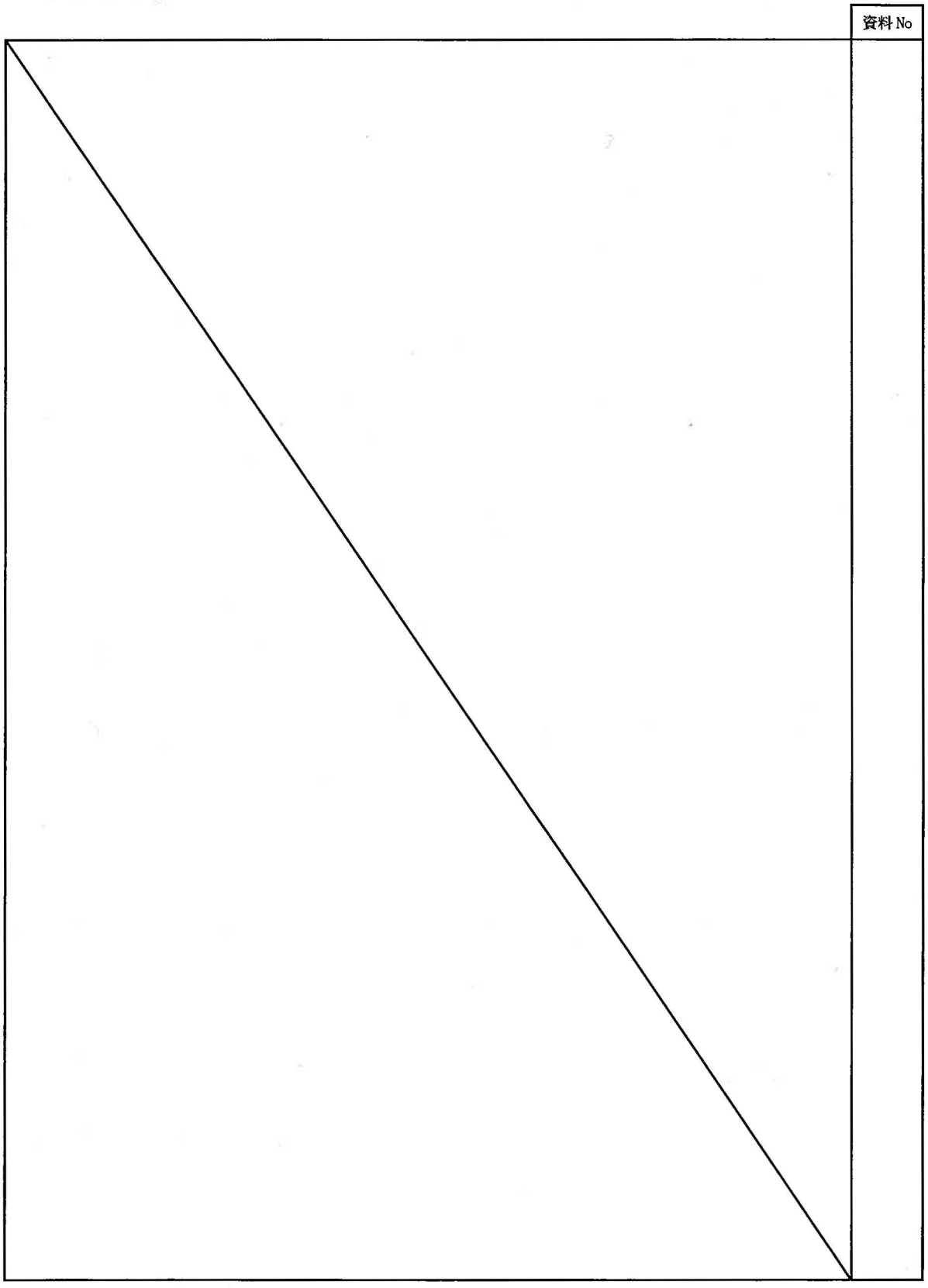
5　主治医・専門医意見

		資料No
主治医の意見書	（○○クリニック主治医意見書要旨） 1　受診の端緒及び初診日について 令和２年３月３１日から発熱（３８．２℃）、咳、頭痛、関節痛があり４月１日に当院初診。 2　自覚症状及び自覚症状の出現日について 令和２年３月３１日から発熱、咳、頭痛、関節痛の症状が出現した。 3　受診時における他覚的所見について ４月１日初診時には体温３７．４℃、診察所見は呼吸音正常、咽頭軽度発赤。 4　疾患名及びPCR検査等の検査成績 記載なし。 5　治療内容 初診時、発熱、咳あり急性気管支炎が疑われ内服治療を開始する。その後も３８℃前後の発熱が続き４月３日に再診される。４日間発熱が続き、上記症状に加え舌のしびれの訴えがあり、感染症の検査が必要と考えられ、同日、○○病院に紹介した。 6　本疾患に影響を与えた基礎疾患について 記載なし。 7　その他参考となる事項 高血圧症があり平成２５年２月１２日から当院にて通院加療しています。内服治療で血圧コントロールは良好です。 （○○病院主治医意見書要旨） 1　受診の端緒及び初診日について 発熱、頭痛、咳嗽が出現し近医受診するも症状持続したため、令和２年４月３日当院を受診。 2　自覚症状及び自覚症状の出現日について 令和２年３月３１日発熱、頭痛が出現 令和２年４月１日咳嗽が出現 3　受診時における他覚的所見について 発熱、咳嗽 4　疾患名及びPCR検査等の検査成績 疾患名：COVID-19肺炎 検査成績：下記 診断根拠：症状およびSARS - Cov-2PCR検査結果より上記と診断。 PCR第１回検査日（令和２年４月３日）陽性 XP/CT/MRI画像撮影確認日（令和２年４月６日） 血液検査実施日（令和２年４月６日） その他（心電図検査）（令和２年４月６日） 5　治療内容	

	入院時はＳｐＯ２は保たれていたが、翌日より徐々に酸素化悪化し酸素投与２Ｌ開始。４／８胸部陰影悪化し酸素需要増加、ＩＣＵ入室。４／９未明頻呼吸、咳嗽が止まらず酸素化低下し酸素投与１５Ｌとなり気管挿管。今後の集中治療管理のため、同日△△医科大学病院へ転院となった。 6　本疾患に影響を与えた基礎疾患 記載なし。 （△△医科大学病院主治医意見書要旨） 1　受診の端緒及び初診日について ２０２０年４月６日より前医入院加療中であったが、４月９日頻呼吸、咳嗽著明、酸素化低下あり挿管管理後、同日当院紹介入院となった。 2　自覚症状及び自覚症状の出現日について ２０２０年３月３１日夜３８．６℃、頭痛あり。４月１日症状改善なく乾性咳嗽出現、近医受診。４月３日前医受診し PCR 提出。４月５日 PCR 陽性、４月６日より前医入院となった。 3　受診時における他覚的所見について 別紙画像検査参照。 4　疾患名及び PCR 検査等の検査成績 ２０２０年４月３日〇〇病院にて PCR 検査施行。 ２０２０年４月５日 PCR 陽性にて COVID-19 と診断。 PCR 第１回検査日（令和２年４月３日）陽性 XP/CT/MRI 画像撮影確認日（令和２年４月９日） 血液検査実施日（令和２年４月９日） 5　治療内容 ２０２０年４月９日 ICU 入室、アビガン投与開始するも腎機能障害認め４月１４日中止。４月１５日呼吸状態悪化あり VV-ECMO 導入。５月１日朝不整脈から心停止となる。 6　本疾患に影響を与えた基礎疾患 不明 診療記録等の収集（有　・　無）	

専門医の意見書	上記被災者は、令和２年３月３１日に発熱、咳、頭痛、関節痛の症状を訴え同年４月１日に近医を受診、その後、○○病院へ紹介入院となり同月３日にＰＣＲ検査で新型コロナウイルス感染症と判定された。同月９日には頻呼吸、咳嗽著明、酸素化低下あり挿管管理後、○○医科大学病院へ紹介入院となったが翌月１日に死亡した。 死亡診断書によれば、直接死因は「ＣＯＶＩＤ１９肺炎」と記載されている。 署の調査結果によると、被災者の業務は新型コロナウイルスに曝露する可能性が高い業務ではなく、所属する事業場内で被災労働者以外の新型コロナウイルスの感染者は確認されていない。 日常生活において、令和２年３月１９、２７日の業務終了後、任意の懇親会に参加し、複数名での飲酒を伴う会食をしている。 ○○市保健所によると感染経路は不明であり、感染源は特定されていない。 新型コロナウイルス感染症発症者の相当程度は感染経路不明の状況であり、本件もどこで感染したのか不明と言わざるを得ない。 したがって、被災者の業務が新型コロナウイルス感染症発症の相対的有力な原因とは言えず、感染経路は不明であるが、業務と一般生活状況のいずれかのリスクが高いのかという点においては、長時間にわたる大人数での会食を複数回行っており、業務により感染した蓋然性が高い労働環境下であったとは認められない。	

6　保健所、検査機関等からの報告内容

		資料No
保健所からの回答	○○市保健所 1　新型コロナウイルス感染症にかかったことを確認した検査の実施日 （令和２年４月５日）結果判明日 令和２年４月３日　検体採取日 2　感染源が特定（推定）されているか （はい・[いいえ]） ※　その他特記事項 新型コロナウイルス感染症発生届（令和２年４月５日報告）において、感染原因・感染経路は飛沫核・飛沫感染、感染地域は○○県○○市（ともに推定）と記載されているが、積極的疫学調査（感染源）において、令和２年３月２６日に○○市内の勤務先に出勤し、３月２７日に本社に出勤したことが判明している。（両日とも勤務先でのマスクの着用無）。 ※添付資料（請求人の感染に係る報道発表資料、行動調査結果その他の参考事項） （[あり]・なし） ・「新型コロナウイルス感染症　発生届」 感染原因・感染経路：推定　飛沫核・飛沫感染 感染地域　　：推定　○○県○○市 ・「行動調査」	
その他検査機関からの回答		

7　その他の事項